1 | 2 1.2006学年度南科モジュール課程計画主催者本局陳俊偉局長(左三)、林逢慶政務委員(左四)、国科会陳建仁主委(左五)、前国科会戴謙副主委(左六)、本局呉盟分副局長(右一)ら。培育成果受賞式にて(7月19日)
2.(左から)本局呉盟分副局長、リッツ台北嚴長壽総裁、清華大学劉炯朗教授、本局陳俊偉局長、自強基金会許明徳董事長ら。嚴総裁講演会にて(10月5日)

人材育成の可能性は無限

人材育成補助

大学・専門学校の学生に産業と接触する機会を提供し、産・学界の人材格差を低減するために、2006年度全国25の学校の31のモジュラー課程に計6,800万円の補助が行われが、そのうち本局が南区の7つの学校の10課程に補助した経費は2,152万円に達した。全課程は2007年6月度末に修了し、合計955人を育成し、2007年7月19日に国家科学委員会で培育成果賞を授与された。

2007年度末で全国36校51の模組課程が1億4,737万8,440円の補助を受け、そのうち本局が南区13校20課程を担当した。その範囲は、バイオテク、通信、コンピューター及び周辺、集積回路、精密機械、光電の六大産業に及び、補助経費は5,151万円に達した。

専業及び技術人材の育成

2007年度、半導体、光電、精密機械、通信、バイオテクノロジー、科技経営管理の六大領域において、園内従業員専業課程を40クラス開き、3回の先進技術専題講座をもった。研修時間数は615時間で、研修人数では1,902人に達し、業者の技術面でのレベルアップに貢献した。

ハイテク産業における戦略革新と核心となる優秀な人材育成

著名人を招いて3回の「ハイテク産業策略創新・核心優勢人材培訓計画」高度講座、パネルディスカッションを開いた。第1回は2007年4月20日に、矽統科技社長、聯華電子名誉副社長の宣明智氏による「経営スタイル～経営はまず管理から」、2007年10月5日に第2回として亜都麗緻飯店嚴長壽氏による「文化と観光からみた台湾産業の未来」、2007年11月27日に第3回として長栄大学企業管理学系講座教授徐強先氏による「逆境こそ成功への出発点～企業の契機と挑戦」と、合計676人の参加があり、業者従業員の視野の拡大と、経営手腕養成に貢献した。

矽統科技社長、聯華電子名誉副社長宣明智氏(右)による講演会「経営スタイル～経営はまず管理から」(4月20日)

(左から)中国造船会社前社長、長栄大学企業管理学系講座教授徐強氏、本局陳俊偉局長、高雄大学黄英忠校長による記念撮影(11月27日)

電信技術人材育成

高雄園区の電信産業発展・従業員の専業技術知識および技能育成のために、本局では委託して電信技術課程を7コースを設けた。投入した経費は計102万円、時間数は40時間、受講者は280人に達し、高雄園区の電信産業に新しい活力を育んだ。

本局陳俊偉局長自ら試乗したソーラーカー「アポロ号」(11月3日)

2007ソーラーカー親子挑戦キャンプにて。軌道を走る模型車(11月3日)

親子太陽エネルギー教育推進

2007年11月3日に、本局ビル前中央広場で「2007太陽エネルギー模型車親子挑戦大会」を開き、約1,200人の参加を得た。親子で太陽エネルギーの模型車の組立および軌道に挑戦してもらい、正確なエネルギー教育の観念を広めた。こうした活動を通じて、中・小学生に太陽エネルギーへの理解を深め、そして政府のエネルギー再生政策及び園区の太陽エネルギー光電産業集積発展に良いイメージ作りができた

短期技術交流

中華民国南部科学園区産学協会各推広委員会、中華民国高雄科学園区産学策進会、財団法人国家高速ネットウォーク及び情報処理センター南部事業群および南部各大学院校らの力を結集して、2007年に38回のセミナーあるいはパネルディスカッションを開催し、のべ2700人の参加があった。そのうち本局がLED、医療器材、経営管理についてパネルディスカッションを主催した。例えば4月17日には「2007年科技産業経営管理パネルディスカッション」、5月18日には「LCDパネル検査設備パネルディスカッション」、7月13日には「2007年LED産業現況と発展パネルディスカッション」、9月28日には「医療器材現況と発展パネルディスカッション」など。

産学提携の新しい試み

産学提携による研究開発

園区業者の技術開発を支援するために、学界の力量を借りて産学提携を進めようと、2007年度8件の「創新研究開発産学合作奨励計画」を許可した。技術研究範囲には、第五代高純度ALターゲット(AL target)開発計画、COF無電解錫メッキ技術(Fine- Pitch COF Packing)の発展、ACF Less USボンディングプロセス の開発、小型ターボエンジン(Turbo Engine)の開発テスト計画などを含み、合計補助金額は7,140万円。

研究開発機構に新たな力が加わる

南部の研究力を結集して園区の開発力を高めるために、2002年から研究開発機構を次々に導入している。現在までに経済部中小企業処南科育成センター、工業技術研究院南科支部、財団法人国家ナミデバイス実験室、財団法人国家高速ネットウォーク及び情報処理センター、国立成功大学創新研究開発センター、国立中正大学創新研究開発センター、中央研究院南部バイオテクノロジー計画研究開発センター、財団法人国家実験動物センター南科センター、財団法人電信技術センターなどが進出し、2007年11月28日には団法人金属工業研究発展センターの高雄園区への進駐が許可され、2007年度末までに累計10の研究機構が入った。

また国立成功大学創新研究開発センター台南園区研究開発ビルが2007年6月22日に台南園区内において起工し、2008年度末完工予定。毎年約3.4億円の研究開発経費が導入され、約850人のハイテク人材が育成される予定である。

国立成功大学台南園区研究開発棟建設地鎮祭(6月22日)